平成26年度　指定管理者制度モニタリング結果報告書

１．施設概要

施設名		神奈川県総合リハビリテーションセンター		
	所在地	神奈川県厚木市七沢516		
	サイトＵＲＬ	http://www.kanagawa-rehab.or.jp/		
	根拠条例	神奈川県総合リハビリテーションセンター条例		
	設置目的(設置時期)	心身障害者等の社会復帰を積極的かつ効果的に推進するため、福祉と医療の連携により、入所及び入院している者等に最も適した診断、治療及び機能回復訓練のほか、職業準備訓練、生活支援等を積極的に行うとともに、併せてこれらに関する研究を行い、総合的かつ一貫したリハビリテーションを実施するため（昭和48年４月）		
指定管理者名		社会福祉法人　神奈川県総合リハビリテーション事業団		
指定期間		H18.4.1～H28.3.31	施設所管課	県立病院課

２．総合的な評価

総合評価	総合的な評価の理由と今後の対応
A Ｓ：極めて良好な管理運営状況 Ａ：良好な管理運営状況 Ｂ：一部改善が必要な管理運営状況 Ｃ：抜本的な改善が必要	【管理運営等の状況】 七沢リハビリテーション病院脳血管センターでの365日リハビリテーションの実施による患者処遇の改善及び収益改善の実現を図ったほか、「さがみロボット産業特区」における実証実験機関として、引き続き県施策と連携を図っている。概ね事業計画等の内容どおり事業を実施している。 【利用状況】 福祉施設については、リハセンター再整備工事の影響を受けた部分もあると思われるが全般的に25年度と比較して利用率の低下がみられた。病院については、目標達成はできなかったが25年度より改善が見られた。今後も利用率向上に向けた取組みを継続する。 【利用者の満足度】 施設により10月、11月、1月のいずれかで実施した。Ａ評価が３施設（４区分）、Ｂ評価が２施設だった。 【収支状況】 管理経費の執行抑制による支出減等により収支差はプラスとなったためＡ評価となった。 【苦情・要望等】 職員対応等に対して苦情・要望が寄せられたが、利用者に理解を得られるような対応をとっている。 以上を総合的に勘案して、総合評価をＡとした。 リハセンターは再整備事業の過渡期であり、26年度及び27年度の病棟休止、28年度の新福祉棟オープンに伴う定員の減少や２病院の統合があるが、円滑な施設管理を行いながら、利用者サービスの向上と収益の確保に努めていただきたい。

３．月例・随時モニタリング実施状況の確認

月例業務報告確認	遅滞・特記事項があった月	特記事項または遅滞があった場合はその理由
	－	－
現場確認	実 施 日	特記すべき事項等があった場合はその内容
	－	－
随時ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ指導・改善勧告等の有無	有　(無)	指導・改善勧告等の内容

４．管理運営等の状況

〔　指定管理業務　〕

事業計画の提案内容	実施状況等	実施状況に関わるｺﾒﾝﾄ
リハセンターの一体的な運営の推進 障害を持つ方の早期社会復帰を目的に、病院と 福祉施設の連携のもと、医学的・職業的・社会的リハビリテーションの各分野を総合的かつ有機的に実施し、 ①民間の病院や福祉施設では対応が難しい重度・重複障害を持つ方へのリハビリテーションと生活・自立支援、 ②リハビリテーションに関する臨床、実践的な医学的・工学的・社会福祉学的領域を基盤とする調査・研究・開発、 ③地域のリハビリテーション活動を支える市町村等への支援などに積極的に取り組み、神奈川県が実施するリハビリテーション事業の中心的、指導的な役割を果たす。	・病院と福祉施設、地域支援センターの連携により、病院での医療リハビリテーションから福祉施設での社会リハビリテーションをセットにして社会復帰に向けた支援を行うとともに、病院・福祉で培ったノウハウを県内の市町村、居宅介護支援事業所、ケアマネなどの地域資源に還元し、障害者が地域で自立した生活をしていけるよう、地域との連携を図った。 ・長年にわたるリハビリテーションに関するノウハウの蓄積、豊富な経験により、多種多様な疾患、障害に対応した。また、多診療科による総合的な診療が可能であることから、身体障害、知的障害者など、障害者が持つ様々な合併症に対応した。医師・看護師・リハスタッフが障害者（知的・身障）の合併症への専門的理解、知識、経験を持ち、タイムリーな医療提供を行った。	

福祉施設の機能充実 (1)　七沢学園 　ア　総合性・高度専門性の発揮 　知的障害児（者）を対象に、保護及び更生に必要な医療と医学的・職業的・社会的リハビリテーションを神奈川リハビリテーション病院と連携して総合的に提供し、社会復帰（職業や家庭生活）への手助けをするとともに、在宅障害者の地域生活を支援する。 　医学的課題・行動的課題（強度行動障害）がある方や、民間施設では受入が困難な難治性てんかん（投薬調整・管理）や内科的医療管理（腎不全、心不全、胃ろう、糖尿病等）などを併せ持つ医療重度者の受入を行なう。 　イ　利用者本位のサービスの提供と安全対策 　個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。 　ウ　効果的・効率的な運営 　採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む。	ア　総合性・高度専門性の発揮 ・知的障害児者に対し、病院と連携して難治性てんかんや胃ろう等医療的課題のある方の受入や、強度行動障害、発達障害等を持つ方への支援を行い、行動障害の軽減、環境への適応性の向上に取り組み、地域生活に向けた支援を行った。 ・地域生活に向けた取組により、下半期実績として児童は退所者13人中13人（100%）が、また成人は退所者19名中15名（78.9%）の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることができ、地域生活への移行への支援という役割を果たすことが出来た。 ・他施設では受け入れが困難な医療重度者の支援に向けた入所支援サービスに取り組んだ。（実５名、一日平均５人入所） ・強度行動障害者への対応は、県強度行動障害対策事業連絡調整会議への参加、訪問調査などに取り組むとともに、神奈川リハ病院と連携しSST手法（SST手法とは、ソーシャルスキルトレーニングの略。知的障害者の社会生活力を高める訓練）等を実施している。（強度行動障害児：実1人（一日平均1.0人）、強度行動障害者：実７人（一日平均6.1人受入）） ・知的障害児童に対して、療育期間１ヶ月～６ヶ月とした集中療育の支援プログラムにより、直接的なケアの内容（生活リズムの立てなおし、排泄訓練、体重コントロール、身辺処理の自立、コミュニケーションの拡大）、間接的なケアの内容（母子分離、集団適応能力観察、心理評価、行動観察・評価）、付帯的目的の内容（レスパイト、一時的な養護性、長期施設待機）、養育環境の整備、不登校の改善、行動改善を実施した。（４枠を活用し年間14人を受け入れた。） ・高次脳機能障害のある児童を知的障害施設の七沢学園の家族短期入所事業で受入れを行なっていたが、平成26年度は再整備工事の既存棟解体による影響で実施場所が不足することから受入れていない。	・再整備工事の影響により、就労移行支援事業の実施に影響が出たため利用率は25年度より下がったものの、退所者の地域生活移行や医療重度者の受け入れ、知的障害児に対する集中療育の支援プログラム等において25年度と同規模で実施した。

	イ　利用者本位のサービスの提供と安全対策 ・人権擁護・虐待防止の視点に立ち、事故防止に向けて、改善計画を作成し、①職員の勤務状況のチェック、②人材育成システムの導入、③職員の外部・内部研修参加の促進、④利用者にむけた体験的研修の実施、⑤オンブズパーソン、ボランティアなど第三者による職員の評価、⑥虐待防止マニュアルの整備など現在取り組み中である。 ・苦情解決への取組みとして毎月第三者委員による個人相談を実施した。また、苦情解決委員連絡会を開催した。（福祉施設共通）	
	・よりよい施設運営に向けて利用者満足度調査を実施した。（福祉施設共通） ・防災訓練計画に基づき毎月避難訓練、消火訓練を実施した。（福祉施設共通） ・内部監査を実施し、服務関係、経理処理関係の監査を行った。26年度は重点項目として県外旅費、県借用備品台帳、未収金関係について確認を行った。（各所属共通） ウ　効果的・効率的な運営 ・相談支援事業所等の訪問を行い、利用率確保に努めた。 ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。 ・消耗品などの購入に関しては、事業団の病院・福祉施設含む全体で一括して入札し単価契約を結ぶなど、費用の削減に努めた。（各所属共通）	

福祉施設の機能充実 (2)　七沢療育園 　ア　総合性・高度専門性の発揮 　重度の知的障害と肢体不自由を併せ持つ重度心身障害児・者を対象とし、神奈川リハビリテーション病院との一体的な運営により、保護・治療・日常生活の指導と医学的リハビリテーションを提供し、障害の軽減や回復を図るとともに、在宅重症心身障害児者とその家族を支援する。 　全身性の医療管理と看護が必要な超・準超重症心身障害児者の受け入れや、在宅重症心身障害児者を支援するための期限を設けた利用（中期入所(※)５床、短期入所１床）を行う。（※中期入所：期間が決められた回転型の入所機能による地域生活者支援として実施） 　イ　利用者本位のサービスの提供と安全対策 　個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。 　ウ　効果的・効率的な運営 　採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む。	ア　総合性・高度専門性の発揮 ・重度の知的障害と重度の肢体不自由を併せ持つ重度重複障害児者に対する支援を行うとともに、人工呼吸器や経管栄養法等全身の管理が必要な超・準超重症心身障害児者の受入や、中短期入所による通過型の支援により地域の在宅児者の支援を行った。 ・40床のうち10床を中短期入所枠とし、在宅重心児者の在宅生活の継続や課題解決に向けた支援を展開している。地域のニーズは高く、期待される役割は大きい。（年間2,705人、一日平均7.4人の利用があった。） ・超・準超重症心身障害児者の受入については、中期入所を含め、最大16.4人（計画10人）の受入を行い支援した。在宅からの中短期入所者の低年齢化、医療重度化が進み、バイタルサインを計測するモニターなどの医療用機器が必須となっており、レンタル等での対応を行っている。また、入所前に地域支援班と看護師が家庭訪問を行い、事前に情報収集、スタッフ間で情報の共有化等の事前準備を行い、保護者、利用者、スタッフにとっても安心、安全な入所につなげている。 ・県の委託により重症心身障害児者の巡回訪問を実施し、個人宅及び作業所、特別支援校などを訪問した。（年間80回実施） 　イ　利用者本位のサービスの提供と安全対策 ・個人情報保護、人権擁護等について、研修の他、朝のミーティング時に対応等への意識付けを行っている。 ・施設利用者の医療重度化に対応するため、人工呼吸器の取扱研修などを行った。 　ウ　効果的・効率的な運営 ・療育訪問指導事業等で施設利用相談を進め、利用に繋げている（「再掲　年間80回実施」） ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。（年間844人の利用）	・25年度より利用率が約４％下がったものの92.4%という高い利用率を維持したうえで、空床を利用した短期利用の受け入れ、中短期入所枠の活用による在宅重度心身障害児者の支援、超・準超重症心身障害児者の受け入れ等について25年度と同規模で実施した。

福祉施設の機能充実 (3)　七沢更生ライトホーム 　ア　総合性・高度専門性の発揮 　肢体不自由者及び視覚障害者を対象に、更生に必要な医学的・職業的・社会的リハビリテーションを神奈川リハビリテーション病院と連携して総合的に提供し、社会復帰（職業や家庭生活）への手助けをするとともに、在宅障害者の自立を支援する。 　肢体不自由者については、脊髄損傷者や高次脳機能障害を持つ重度の肢体不自由者等を対象とし、身体機能の回復・改善、職業能力・社会生活力の向上に必要な支援を行い、就労、社会参加、家庭復帰が円滑に行えるよう努め、障害者の社会復帰に向けた支援を行なう。 　中途視覚障害者については、糖尿病等の医療管理を要する者、高次脳機能障害を併せ持つ者やロービジョン（低視覚障害）者等を対象とし、社会生活力の向上を目指して、歩行能力の回復、点字の読み書き習得、情報機器の活用、身辺管理・家事動作技術の習得、ロービジョン評価・訓練、視覚障害者スポーツ、職業復帰に向けた支援など地域での在宅生活に向けての支援を行う。 　イ　利用者本位のサービスの提供と安全対策 　個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。 ウ　効果的・効率的な運営 　採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む。	ア　総合性・高度専門性の発揮 ・【身障者の利用状況】 病院を退院したものの自宅での生活が困難な頚髄損傷、高次脳機能障害、脳血管障害等による重度の肢体不自由者に対し、病院に引き続く医療的リハビリテーションを行うとともに、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、地域生活（家庭生活）が営めるよう支援を行った。 年間退所者40人（障害別内訳　脊損5人、脳外傷3人、脳血管障害27人、脳性麻痺0人、その他神経疾患等4人）（通所者退所はなし） ・【視覚障害者の利用状況】 疾病等による中途の視覚障害者に対し、感覚訓練、歩行訓練等によるリハビリテーションにより、地域生活が営めるよう支援を行った。 年間退所者10人（通所者13人退所） ・地域生活に向けた取組により、肢体不自由者については、年間退所者40名のうち35名（87.5%）の利用者が家庭、グループホームを活用した地域生活に移ることが出来た。 視覚障害者については、年間退所者11名のうち10名（90.9%）が家庭に復帰することが出来た。 ・また、入院中に賃貸住宅の期限切れなどで住居を失った重度の障害者に対し、地域において単身生活ができるよう支援を行った。（年間の単身者の地域移行：肢体不自由者８名、視覚障害者１名） ・神奈川リハ病院眼科外来と連携し、ロービジョン（低視覚障害）者の相談・技術支援等を行った。 ・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、医療・介護用ロボットの実証試験機関として位置づけられている。パワーアシストハンド（チームアトム）をはじめ、心の体温計（ＰＳＴ株式会社）、盲導犬ロボット（日本精工）等一般企業のロボット開発に対し、製品評価を行うなどの開発支援を行った。このうち、盲導犬ロボットに対しては視覚障害者の特性などを考慮した専門的評価、アドバイスを行うなど、県が進めている産業育成に貢献した。 　イ　利用者本位のサービスの提供と安全対策 ・人権擁護・虐待防止についての職員研修を実施した。	・25年度より利用率が約13%下がったが、退所者の地域生活移行等について25年度と同規模で実施した。

	ウ　効果的・効率的な運営 ・地域医療機関説明会、見学会などを実施し、利用率の向上に努めた。 ・空床を利用した短期利用の受入を行い、施設の有効活用を図った。 ・地域の回復期リハ病棟を訪問し、利用者確保を図った。 ・施設機能の広報及び利用者の開拓を目的に視覚障害者の生活訓練体験会を実施した。 ・国立相模原病院の外来通院患者及び家族を対象に、国立相模原病院、神奈川リハ病院、ライトホームの合同で、「生活訓練体験会」を実施した。 ・視覚障害部門オープンセミナーとして、利用者の拡大を目的に、医療関係者を対象に支援技術と施設機能の紹介を行った。	
病院の機能充実 (1)　神奈川リハビリテーション病院 　ア　総合性・高度専門性の発揮 　民間医療機関での対応が難しい脊髄損傷、脳外傷（高次脳機能障害）、骨・関節疾患や神経疾患等の重度・重複障害を持つ方の早期社会復帰を可能とする 総合的かつ高度専門的なリハビリテーション医療を提供し、県民サービスの充実を目指す。 　イ　利用者本位のサービスの提供と安全対策 　個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。 　ウ　効果的・効率的な運営 　採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む。	ア　総合性・高度専門性の発揮 ・脊髄損傷、外傷性脳損傷（高次脳機能障害）、変形性股関節症（手術を含む）、神経疾患、小児神経疾患等のリハビリテーションを行うとともに、多診療科による障害者の総合診療・総合医療の提供を行った。 ・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行うとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職・復学等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行った。 ・退院患者のうちの主な疾患患者数 　脊髄損傷：115人（うち、頚髄損傷47人）、高次脳機能障害：223人、小児神経疾患：92人、神経難病：33人、その他、変形性股関節症他：820人 ・退院患者のうち87.0%が自宅退院出来た。 ・就労支援について、就職・復職者は、年間実績では新規就労0名、復職20名であった。	・利用率向上に向けた取り組みを継続して実施し25年度に比べ利用率があがったほか、退院患者の自宅復帰や退院後の就労・復職支援等について25年度と同規模で実施した。

	・総合療育相談センター（身体障害者更生相談所）が行う身体障害者の補装具作成に伴う評価判定の協力として、医師、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどが関わり、電動車いす（対応総数57件・評価判定13件）と重度障害者意思伝達装置（対応総数1件・評価判定0件）の評価判定を行った。 ・脊髄損傷、高次脳機能障害、変形性股関節症（術中を含む）、小児脳損傷、脳血管障害に対応したクリニカルパスにより、患者にとってわかりやすい医療を提供するとともに、平均在院日数の短縮、安定的治療、ベッドコントロールの円滑化を図った。 イ　利用者本位のサービスの提供と安全対策 ・日本医療機能評価機構の認定病院として、病院機能の向上、患者サービスの向上に向けた取り組みを図った。 ・医療安全推進室のリスクマネージャーを中心に、ヒヤリ・ハット事例を含むすべての事故事例をインシデント・アクシデント・クレームレポートとして報告する制度により、事故事例の分析などを通じて事故の再発防止に取組み、安全安心な医療サービスの提供に取り組んだ。（両病院共通） ・アドボカシー室において、利用者からの要望、苦情に対する回答として院内表示及び郵送などによる対応を行った。（両病院共通） ・入院患者満足度調査、外来患者満足度調査を実施した。（両病院共通）	

	・新型インフルエンザ対応マニュアル等、医療安全マニュアルによる安全対策を実施している。（両病院共通） ・医療安全対策の取組みとして、離院・離棟捜索訓練、医療安全研修、医薬品安全使用チェックリストに基づく業務点検等を行った。（両病院共通） ・リハセンター全体で、大規模震災を想定した総合防災訓練を実施し、大災害時の対応方法等の検証を行った。（各所属共通） ウ　効果的・効率的な運営 ・利用率当初計画の達成に向けて、次のとおり取り組んだ。 ①患者の確保に向け、近隣病院への入院案内（申込書）の発送、ソーシャルワーカー等を対象とした説明会を開催し、当院の機能と対象患者、入院手続きの説明を行った。（ソーシャルワーカーが交代すると当院を理解していないため、紹介患者が少なくなるためである。） ②入院審査会を毎日開催し、特段の理由がない限り受け入れを行った。 ③ドクターtoドクターによる紹介患者の早期受け入れを行った。 ④ソーシャルワーカーの事前患者情報収集の強化、急性期病院に入院中から、患者情報を収集し、病態、生活環境などを把握し、患者受入手続きの円滑化を図る。 ⑤ベッドコントロールを実施した。 ・ニーズの高い小児科のベッド拡大 ・診療科の枠を超えたベッド利用の推進 ・在宅難病患者の緊急一時入院の協力 ・他科の病棟の活用による利用率向上 ・看護師の病棟間支援、柔軟な配置による他科病棟への業務支援 ⑥ＰＭＦ（patient flow management)の導入による、入院患者への看護師業務の効率化を実施した。 ⑦小児科１日検査入院を実施した。 ⑧査定減対策の実施　査定減の原因をレセプトと照合し、診療科にフィードバックした。 ⑨未収金対策を実施した。 ・ホームページや広報誌による広報活動の充実を図った。（両病院共通） ・薬品については、県立病院全体での入札による単価契約に基づき購入するなど、費用の削減に努めた。（両病院共通） ・検査試薬、診療材料は、事業団２病院で入札による単価契約を結び、費用の削減に努めた。また、後発医薬品の購入等の促進に取り組んだ。（両病院共通） ・夜勤専門看護職員を雇用するなど多様な雇用形態に努めた。（両病院共通）	

病院の機能充実 (2)　七沢リハビリテーション病院脳血管センター 　ア　総合性・高度専門性の発揮 　脳卒中のリハビリテーション専門病院として、脳卒中の予防から発症後のリハビリテーション、退院後の社会（家庭）復帰までの 一貫した 包括的・先進的な医療を提供し、県民サービスの充実を目指す。 　イ　利用者本位のサービスの提供と安全対策 　個人情報保護、人権擁護、苦情解決、利用者サービスの向上対策、自己評価・第三者評価等の推進、防災体制、事故対策等危機管理等利用者本位のサービスの提供と安全対策に取り組む。 　ウ　効果的・効率的な運営 　採算性に配慮した運営や収益の確保対策と経費の節減対策に取り組む。	ア　総合性・高度専門性の発揮 ・生活習慣改善による脳卒中の予防から発症後の回復期にある患者に対するリハビリテーション、さらには退院後の機能低下に対する再訓練を行うとともに、高次脳機能障害や合併症による重度・重複障害の社会復帰に向けた支援を行った。 ・多職種によるチームアプローチにより、医療の提供を行うとともに、医療的リハビリテーション、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションにより、家庭復帰、復職等、地域での生活が営めるよう、個々人のニーズや残存機能に応じた支援を行った。 ・年間退院患者614人のうち446人（82.3%）が自宅退院できた。 ・入院患者の多くに何らかの高次脳機能障害を有しているため、臨床心理士、ＰＴ、ＯＴ、ＳＴ、看護師等による総合的アプローチを実施した。 ・医療の質の向上を図るため、クリニカルパスによる入院から退院までの一貫した流れを図式化し、患者を含め情報を横断的に共有できることで入院期間の短縮やチーム医療の徹底を図った。 《クリニカルパスの種類》 ①脳卒中リハビリテーションクリニカルパス ②生活習慣改善入院クリニカルパス ・生活習慣改善入院の機能により、脳卒中の予防に努めた。（年間：実20人・延470人）	・入院患者の早期離床、ADL向上の促進のため、365日リハビリテーション訓練を新たに実施したことにより、患者に対するサービス向上と併せて収益増につながった。 ・25年度に引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの実証試験機関として、県施策と連携した取組みを実施した。

	・「摂食・嚥下外来」や「禁煙外来」の専門外来を実施した。 ・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、当センターは、医療・介護用ロボットの実証試験機関として位置づけられている。パワーアシストハンド（チームアトム）をはじめ、心の体温計（ＰＳＴ株式会社）等一般企業のロボット開発に対し、製品評価を行うなどの開発支援を行った。 さらに、高齢社会課が進める介護ロボット普及センター事業にも協力し、ロボットスーツHALを両病院で使用し、利用評価、事例蓄積等を行った。 特に七沢病院は、パワーアシストハンド、心の体温計については、中核となって受入れ、開発企業にフィードバックを行い産業育成に貢献した。 ・県内医療機関ソーシャルワーカーを対象とした見学会の開催、自立支援協議会の参加等で地域関係機関との連携を図った。 ・脳血管疾患患者の早期受け入れに向けて、救命救急センターとの連携強化に取り組んだ。 ・患者の人権擁護等利用者サービス向上のため、研修を開催し、医療従事者として必要な知識の向上に努めた。 ・脳卒中地域連携パスの推進として、県内14グループのうち、10つのグループに参加するなどの取組みを行った。 イ　利用者本位のサービスの提供と安全対策 ・入院患者の早期離床、ADL向上の促進のため、365日リハビリテーション訓練を実施した。 ・リハスタッフと看護職員が連携し、病棟内リハビリテーション訓練を実施した。	

	ウ　効果的・効率的な運営 ・回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰの施設基準を算定することにより、より重度の患者への対応を行うとともに収益増を図っている。 回復期リハⅡ：１８１１点→回復期リハⅠ：２０２５点 ①入院審査会を毎日開催し、特段の理由がない限り受け入れを行った。 ②ドクターtoドクターによる紹介患者の早期受け入れを行った。 ③入院患者確保対策（54病院に対して毎週空床情報をFAXで送付等） ④患者の確保に向け、県内脳卒中連携パスの会議に参加した。 ⑤ソーシャルワーカーと事務による病院訪問、パンフレット送付を行った。 ⑥入院コーディネーターの充実により、入退院の円滑化を図った。 ⑦査定減対策の実施　査定減の原因をレセプトと照合し、診療科にフィードバックした。 ⑧未収金対策を実施した。 ・脳卒中公開講座の開催により、一般県民向けに脳卒中予防や病院の機能紹介を行った。 ・毎月施設の利用状況及び収入分析について経営会議で報告し、適切な施設経営に努めた。	
地域支援機能 総合性・高度専門性の発揮 　県域のリハセンターとして市町村が実施する地域リハビリテーションシステムの基盤整備事業の推進を図るための支援や技術援助を行い、障害を持つ方々の地域での自立生活を支えていく。 　また、県の指定する「神奈川県リハビリテーション支援センター」として、全県的な立場から地域を支援するため、 ①リハビリテーション情報の収集・提供、 ②リハビリテーション専門相談、 ③リハビリテーション人材の養成等、 神奈川県下のリハビリテーションシステムの構築に取り組む。	・リハセンターがこれまで培った技術・知識を地域に還元し地域リハ推進を支援するため、専門職種に対する研修、専門相談、情報の提供を行うとともに、必要に応じて地域の個別困難事例に地域のスタッフとともに取り組んだ。 （年間実績　専門相談対応延件数665件（相談件数245件）、専門研修30項目・実1,244人、延1,426人受講） ・県の高次脳機能障害支援拠点として、支援方法の普及、地域連携支援を行うとともに、県単事業として巡回相談、関係機関コンサルテーション、地域ネットワークづくりに取り組んだ。 ・神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会の開催　地域支援ネットワークの充実を図った。 ・高次脳機能障害相談支援コーディネーターの配置により、個別支援、地域支援、研修、地域連携を柱にした事業を実施した。 ・年間実績　依頼元件数261件（家族本人118件、医療機関73件、地域相談窓口40件、介護保険関係機関13件、市町村他17件） ・政令指定都市との連携や自立支援協議会との連携、当事者団体との連携を行った。	・25年度と同様の事業により、地域リハビリテーションシステムの構築のための取組みを継続して実施した。 ・25年度に引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの実証試験機関として、県施策と連携した取組みを実施した。

	・新規研修の開催、出前研修を実施し参加しやすく工夫するなど専門職員研修を充実させた。 ・地域リハビリテーション推進モデル事業を実施している足柄上地区において、地域の保健師やケアマネージャーを対象に市町村を巡回し、福祉用具や家屋改修、家庭での生活方法など相談を行った。また、足柄上地区のケアマネージャー連絡会において、「高次脳機能障害者への支援」として講演や、「リハビリテーションの視点からの動作介助技術」で看護、介護職を対象に講義を行った。 ・地域包括支援センター連絡会に参加し情報共有を進めた。 ・かながわ地域リハ支援連絡会を開催した。県内の地域リハを推進する、当リハセンターと横浜市総合リハセンター、川崎市北部リハセンター、れいんぼう川崎、相模原市による定例の情報交換会で、相互の地域で自宅復帰した患者の情報共有や福祉サービスの調整ができる事を目的とする。 ・３月に一般県民等に向けたかながわリハビリテーション・ケアフォーラムを開催し、特別講演とシンポジウムを行った。 特別講演「京都式地域包括ケアと地域リハビリテーション支援事業」シンポジウム「形づくろう！神奈川県らしい地域包括ケア」 ・ホームページの情報を充実するとともに、facebookを開設し、タイムリーに地域専門職への情報発信できるようにした。また「地域支援センターだより（広報誌）」により、リハビリテーション情報の提供を実施した。	

研究機能 総合性・高度専門性の発揮 　医療と福祉を一体的に運営しているという特徴を生かし、医学的・工学的・社会福祉学的領域において、関係機関と連携して臨床的、実践的な調査・研究・開発を展開する。	・病院・福祉施設であるリハセンターとして、臨床的・実践的な研究・開発を推進している。 【研究テーマ】 ⑴　障害児者におけるリハビリテーションアプローチに関する研究 ⑵　障害児者に関する計測的・工学的研究 ⑶　障害児者に関する移動及び姿勢制御等の研究 ⑷　福祉機器の開発及び評価支援システムに関する研究 ⑸　障害児者の生活の質に関する研究 ⑹　ロボットによる支援リハビリテーションアプローチの研究 【他大学等との連携した研究】 ○　佐賀大学医学部松尾清美准教授・株式会社岡村製作所 「足駆動による短距離移動が容易な椅子の開発」 ○　日建リース工業株式会社 「介護保険福祉用具貸与に係る13品目の開発に向けた共同研究」 【各種委員会における共同研究等】 ○　平成26年度国際標準共同開発事業への協力 ・平成26年度車いす座位変換機能国際標準分科会への委員参加 ・平成26年度シルバーカー国際標準分科会への委員参加 ○ 平成26年度ロボット介護機器開発・導入促進事業（基準策定・評価事業）への協力 ・平成26年度ロボット介護機器標準化委員会への委員協力 ・平成26年度屋内移動支援機器・屋外移動支援機器分科会への委員協力（委員長） ○ 温泉と未病（生活習慣病）研究に関する検討会・プロジェクト（神奈川県）への協力 ・温泉と未病（生活習慣病予防）研究に関わる検討委員会への参加 ○日本障害者スキー連盟の用具研究開発への協力 ・文科省「マルチサポート戦略事業」および内閣府「SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）」を取りまとめる日本障害者スキー連盟の障害者スポーツに関する用具開発研究（チェアスキー）への研究協力 ・「福祉機器フェスティバル」（H26.10.25）を開催した。最新福祉機器の展示・体験、リハビリテーション工学の体験（義足体験、歩行分析等）、障害者スポーツ体験など、一般企業と協力して開催し　福祉機器の紹介を行い障害者の生活の向上に貢献した。 ・県が進めている「さがみロボット産業特区」について、研究部では、日本精工（株）が開発するガイダンスロボットや、（株）安川電機が販売を進めている歩行支援ロボットの製品評価に関わり、県が進めている産業育成に貢献した。 ＜リハ工学関係～車いす開発に関する研究　主な学会発表＞ 第29回リハ工学カンファレンス発表　８月 「チェアスキーの開発－ソチパラリンピックに向けた取り組み－」 「重度身体障害者の入力用デバイスに関する研究－マウススティックによるキーボード操作の評価検討－」 第３０回日本義肢装具学会発表　10月 「高位頸髄損傷者の頸部負担に着目した車椅子上でのキーボード入力動作の分析-」	・25年度と同様の事業により、関係機関と連携した臨床的・実証的な調査・研究等を継続して実施した。 ・25年度に引き続き「さがみロボット産業特区」における医療・介護用ロボットの実証試験機関として、県施策と連携した取組みを実施した。

〔　参考：自主事業　〕

事業計画の提案内容	実施状況等
該当なし	

５．利用状況

(1)　七沢学園（児童・入所）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～ 100%未満　Ｃ： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	10,082	10,513	10,006	9,431
対前年度比			95.2%	94.3%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	9,855	9,855	9,855
目標達成率		106.7%	101.5%	95.7%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

	入所					合　計
定　員	28					
年間利用可能日数	365					
最大人数※１	10,220	0	0	0	0	10,220
稼働率	92.30%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(2)　七沢学園（児童・地域支援【短期入所、家族短期、家族一日、日中一時支援】）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～ 100%未満　Ｃ： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
S	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	1,586	938	665	700
対前年度比			70.9%	105.3%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	1,212	1,212	579
目標達成率		77.4%	54.9%	120.9%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

						合　計
定　員						
年間利用可能日数						
最大人数※１	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(3)　七沢学園（成人・入所）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上　A：100%以上～110%未満　B：85%以上～ 100%未満　C： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	34,075	16,863	18,130	14,721
対前年度比			107.5%	81.2%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	19,710	19,710	19,710
目標達成率		85.6%	92.0%	74.7%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

	入所					合　計
定　員	58					
年間利用可能日数	365					
最大人数※１	21,170	0	0	0	0	21,170
稼働率	69.50%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(4)　七沢学園（成人・地域支援【短期入所、日中一時支援】）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上　A：100%以上～110%未満　B：85%以上～ 100%未満　C： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
S	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	65	834	1,061	1,164
対前年度比			127.2%	109.7%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	360	360	360
目標達成率		231.7%	294.7%	323.3%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

						合　計
定　員						
年間利用可能日数						
最大人数※１	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(5)　七沢療育園（入所）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上　A：100%以上～110%未満　B：85%以上～ 100%未満　C： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
A	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	14,103	13,697	13,680	13,159
対前年度比			99.9%	96.2%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	13,505	13,505	13,140
目標達成率		101.4%	101.3%	100.1%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

	入所					合　計
定　員	39					
年間利用可能日数	365					
最大人数※１	14,235	0	0	0	0	14,235
稼働率	92.40%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(6)　七沢療育園（地域支援【短期入所、重心親子教室、療育訪問指導】）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上　A：100%以上～110%未満　B：85%以上～ 100%未満　C： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
S	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	449	401	768	917
対前年度比			191.5%	119.4%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	408	258	498
目標達成率		98.3%	297.7%	184.1%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

						合　計
定　員						
年間利用可能日数						
最大人数※１	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(7)　七沢更生ライトホーム（入所）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～ 100%未満　Ｃ： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	47,554	20,578	23,214	20,025
対前年度比			112.8%	86.3%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	23,725	23,725	23,725
目標達成率		86.7%	97.8%	84.4%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

	入所					合　計
定　員	69					
年間利用可能日数	365					
最大人数※１	25,185	0	0	0	0	25,185
稼働率	79.50%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(8)　七沢更生ライトホーム（地域支援【短期入所、通所、受託評価】）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～ 100%未満　Ｃ： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	1,566	1,815	1,677	2,143
対前年度比			92.4%	127.8%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	2,913	2,903	2,903
目標達成率		62.3%	57.8%	73.8%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

						合　計
定　員						
年間利用可能日数						
最大人数※１	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(9)　神奈川リハビリテーション病院（入院）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上　A：100%以上～110%未満　B：85%以上～ 100%未満　C： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
B	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	92,859	85,298	78,848	80,319
対前年度比			92.4%	101.9%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	91,980	91,980	91,980
目標達成率		92.7%	85.7%	87.3%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

	入院					合　計
定　員	280					
年間利用可能日数	365					
最大人数※１	102,200	0	0	0	0	102,200
稼働率	78.60%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(10)　神奈川リハビリテーション病院（外来）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、S：110%以上　A：100%以上～110%未満　B：85%以上～ 100%未満　C： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	86,937	76,024	77,029	72,724
対前年度比			101.3%	94.4%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	87,900	88,200	87,900
目標達成率		86.5%	87.3%	82.7%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

						合　計
定　員						
年間利用可能日数						
最大人数※１	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(11)　七沢リハビリテーション病院脳血管センター（入院）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～ 100%未満　Ｃ： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	72,691	59,179	49,644	42,733
対前年度比			83.9%	86.1%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	64,240	64,240	55,115
目標達成率		92.1%	77.3%	77.5%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

	入院					合　計
定　員	151					
年間利用可能日数	365					
最大人数※１	55,115	0	0	0	0	55,115
稼働率	77.50%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

(12)　七沢リハビリテーション病院脳血管センター（外来）

評価	≪評価の目安≫目標値を設定し目標達成率で、Ｓ：110%以上　Ａ：100%以上～110%未満　Ｂ：85%以上～ 100%未満　Ｃ： 85%未満　目標値を設定していない場合は対前年度比。社会福祉入所施設と県営住宅については評価を行わないこともできますが、「目標値」欄には代わりに定員数等を記載してください。
C	

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※２	前々年度	前年度	平成26年度
利用者数※１	16,081	9,816	7,596	6,131
対前年度比			77.4%	80.7%
目　標　値	〔目標値設定根拠〕	14,650	14,700	14,650
目標達成率		67.0%	51.7%	41.8%

〔　参考：最大利用可能人数　〕

						合　計
定　員						
年間利用可能日数						
最大人数※１	0	0	0	0	0	0
稼働率	%	%	%	%	%	

※1　原則は人数だが、施設の状況等により変更は可能。単位を変更した場合はその理由

※2　現指定期間より前の状況について参考として記載。(既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値)

６．利用者の満足度

(1)　七沢学園（児童・成人）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、Ｓ：90%以上　Ａ：70%以上～90%未満　Ｂ：50%以上～70%未満　Ｃ：50%未満
B	

満足度調査の実施内容	協定等に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	H26.11.2～H26.11.21に実施した。 概ね満足されている評価となった。

実施した調査の配付方法　対面調査　　回収数／配付数　47 ／ 50 ＝ 94.0%

配付(サンプル)対象　利用者

	満足	どちらかといえば満足	普通	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
総合満足度の回答数	26	6	8	4	3	47	・やさしい職員が多い。 ・夏は寒く、冬は暑い。
回答率	55.3%	12.8%	17.0%	8.5%	6.4%		
前年度の回答数	30	5	11	4	5	55	
回答率の対前年度比	98.6%	71.2%	117.5%	85.5%	142.4%		

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

(2)　七沢療育園

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、Ｓ：90%以上　Ａ：70%以上～90%未満　Ｂ：50%以上～70%未満　Ｃ：50%未満
A	

満足度調査の実施内容	協定等に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	H26.10.8～H26.10.20に実施した。 概ね満足されている評価となった。

実施した調査の配付方法　郵送　　回収数／配付数　20 ／ 29 ＝ 69.0%

配付(サンプル)対象　利用者の保護者及び後見人

	満足	どちらかといえば満足	普通	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
総合満足度の回答数	11	4	2	1	2	20	・衛生面で管理が行き届いている。 ・年齢とともに体の変化が著しく、良いと思って作成した車いすもわずかな年数で修理や改良をしなければならず、もう少し先を見越して作成して欲しい。
回答率	55.0%	20.0%	10.0%	5.0%	10.0%		
前年度の回答数	11	4	1	1	1	18	
回答率の対前年度比	111.1%	111.1%	55.6%	111.1%	55.6%		

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

(3)　七沢更生ライトホーム

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上　A：70%以上～90%未満　B：50%以上～70%未満　C：50%未満
A	

満足度調査の実施内容	協定等に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	H26.11.10～H26.11.21に実施した。 概ね満足されている評価となった

実施した調査の配付方法　対面、利用者に配布　回収数／配付数　58 ／　65 ＝　89.2%

配付(サンプル)対象　利用者

	満足	どちらかといえば満足	普通	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
総合満足度の回答数	25	16	10	4	3	58	・優しい対応に感謝する。 ・食事の味が薄い。
回答率	43.1%	27.6%	17.2%	6.9%	5.2%		
前年度の回答数	21	12	19	7	6	65	
回答率の対前年度比	75.0%	66.9%	169.5%	156.2%	178.5%		

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

(4)　神奈川リハビリテーション病院（入院）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上　A：70%以上～90%未満　B：50%以上～70%未満　C：50%未満
A	

満足度調査の実施内容	協定等に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	H26.10.6～H26.10.17に実施した。 概ね満足されている評価となった。

実施した調査の配付方法　病棟で配布　回収数／配付数　151 ／　199 ＝　75.9%

配付(サンプル)対象　入院患者

	満足	どちらかといえば満足	普通	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
総合満足度の回答数	47	76	22	3	3	151	・行き届いた看護で良かった。 ・コインランドリーが少ない。
回答率	31.1%	50.3%	14.6%	2.0%	2.0%		
前年度の回答数	67	38	29	6	2	142	
回答率の対前年度比	151.6%	53.2%	140.2%	212.7%	70.9%		

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

(5)　神奈川リハビリテーション病院（外来）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上　A：70%以上～90%未満　B：50%以上～70%未満　C：50%未満
A	

満足度調査の実施内容	協定等に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	H27.1.19～H27.1.23に実施した。 概ね満足されている評価となった。

実施した調査の配付方法　外来窓口で配布　回収数／配付数　494 ／ 594 ＝ 83.2%

配付(サンプル)対象　外来患者

	満足	どちらかといえば満足	普通	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
総合満足度の回答数	314	121	51	7	1	494	・先生達は、とても信頼のおける方々で、とても希望が持てるようになった。 ・車いす用の駐車場が少ない。屋根付きにして欲しい。
回答率	63.6%	24.5%	10.3%	1.4%	0.2%		
前年度の回答数	318	130	61	4	4	517	
回答率の対前年度比	96.8%	102.7%	114.3%	54.6%	382.2%		

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

(6)　七沢リハビリテーション病院脳血管センター（入院）

評価	≪評価の目安≫ 「満足」（上位二段階の評価）と答えた割合が、S：90%以上　A：70%以上～90%未満　B：50%以上～70%未満　C：50%未満
B	

満足度調査の実施内容	協定等に定めた調査内容	実施結果と分析
	管理業務のサービス水準の向上を目的として実施する。	H26.10.20～H26.10.27に実施した。 概ね満足されている評価となった。

実施した調査の配付方法　利用者に直接配布　回収数／配付数　53 ／ 96 ＝ 55.2%

配付(サンプル)対象　入院患者

	満足	どちらかといえば満足	普通	どちらかといえば不満	不満	合計	満足、不満に回答があった場合はその理由
総合満足度の回答数	25	9	18	0	1	53	・スタッフ指導がよくなされている。 ・患者に寄り添って声をかける看護師・療法士が多くいて安心して入院生活が送れた。 ・看護師の対応が悪い。何かにつけて待たされることが多い。
回答率	47.2%	17.0%	34.0%	－	1.9%		
前年度の回答数	39	15	23	1	0	78	
回答率の対前年度比	106.0%	113.2%	86.8%	－	－		

（複数回実施した場合は、平均値を記載。）

７．収支状況

評価	≪評価の目安≫ 収入合計／支出合計の比率が　S（優良）：105%以上　A（良好）：100%～105%未満　B（概ね計画どおりの収支状況である）：85%～100%未満　C（収支比率に15%を超えるマイナスが生じている）：85%未満
A	

〔　指定管理業務　〕　（単位：千円）

	〔参考〕直営／管理委託／指定管理※	前々年度	前年度	平成26年度	備考
（１）収入					
〔参考〕年度計画	15,202,351	10,888,240	10,783,143	10,599,020	運営費収入・受入研修費収入等
指定管理料	0	4,497,054	4,270,908	4,292,484	
利用料	7,407,670	5,999,266	5,630,117	5,429,688	
その他収入	7,626,305	57,254	50,477	58,532	
合計	15,033,975	10,553,574	9,951,502	9,780,704	
対前年度比		70.2%	94.3%	98.3%	
対　計画比	98.9%	96.9%	92.3%	92.3%	
（２）支出					
〔参考〕年度計画	15,202,351	10,888,240	10,783,143	10,599,020	
支出額	14,651,710	10,326,736	10,126,985	9,670,582	
（内　納付金　）					
対前年度比		70.5%	98.1%	95.5%	
対　計画比	96.4%	94.8%	93.9%	91.2%	
（３）収支					
〔参考〕年度計画	0	0	0	0	
収支差額	382,265	226,838	-175,483	110,122	
対前年度比		59.3%	－	－	
収入合計／支出合計の比率	102.6%	102.2%	98.3%	101.1%	

※　現指定期間より前の状況について参考として記載。（既に指定管理者制度を導入していた場合は期間中の平均値）

※　　の欄は記入不要。

〔　参考：県が支出した修繕工事費　〕　※県が支出する計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費

時期(年・月)	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
H26.12～H27.3	5,783	神奈川リハ病院エリア屋内訓練棟女子トイレ ・改修工事　4,050千円 ・工事監理業務委託　540千円 ・実施設計業務委託　1,193千円
H26.12～H27.2	5,055	神奈川リハ病院エリア第6駐車場アスファルト舗装改修工事 5,055千円
H26.12～H27.2	1,724	神奈川リハ病院エリア西側構内フェンス交換工事 1,724千円
H26.7～H26.8	1,653	厚木看護専門学校消火配管更新工事 1,653千円

（　基本協定において県が負担することとしている修繕費等：　100,000 円以上　）

〔　参考：資本的な収入及び支出等の状況　〕

	金額（千円）	内　容（金額）
収　入	1,915,655	退職給付引当資産取崩収入　184,749千円 総合リハ事業積立資産取崩収入　1,726,474千円 職員共済事業等積立資産取崩収入　4,432千円
支　出	2,580,741	退職給付引当資産支出　2,285,374千円 経営安定化調整資金積立資産支出　90,750千円 職員共済事業等積立資産支出　204,617千円
積　立	5,220,700	退職給付引当資産　4,929,766千円 経営安定化調整資金積立資産　90,750千円 職員共済事業等積立資産　200,184千円

８．苦情・要望等

(1)　七沢学園（児童・成人）

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応		件		
		件		
事業内容	その他	1　件	入所できないのは納得できない。	七沢学園（生活訓練）の入所システムは、順番制ではなく審査制であり、本人の状況から生活訓練の対象とは考えていないことを説明した。
		件		
その他	対面	2　件	利用者が、神奈川リハ病院の歯科外来を受診後、歯が１本黒くなった。	治療方針を説明するとともに謝罪した。
		件		

※指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(2)　七沢療育園

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備		件		
		件		
職員対応	電話	1　件	利用者から車いすの不具合について相談があった。依頼した内容が反映されていなかったこと、施設及び業者からその都度連絡もなかったことに納得いかない。	できる範囲で丁寧な対応を心掛けたが、業者との連携がうまくいかず、利用者の希望に添うことができなかった。業者からも謝罪があり、職員においてもより一層の丁寧な対応が欠けていた点を謝罪した。今後の対応策としては、保護者の困り具合に共感しつつ、相談に乗っていくことであり、関係者で再確認を行った。
		件		
事業内容		件		
		件		
その他	意見箱	1　件	保護者から利用者と遠慮なく電話連絡できるのか、業務中は迷惑ではないか、と質問があった。	自由に連絡していただいて構わないことを説明した。また、保護者から他の保護者にも周知して欲しいとの要望を受け、保護者会で周知した。
		件		

※指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(3)　七沢更生ライトホーム

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	来室	1　件	トイレの仕切りはカーテンだが、せめてアコーディオンカーテンにして欲しい。	アコーディオンカーテンは、利用者の状態によっては開閉できない方もいるため、引き続きカーテンを使用することを説明した。
	その他	1　件		
職員対応	来室	1　件	一部の職員が、必要な時に声をかけているのに、他の利用者には対応するが、自分の場合は後回しにされる。	障害の重い利用者に手が取られてしまい、自立度の高い利用者の方が我慢をしていただかなければならない状況があることも理解してもらうとともに、そのような状況では利用者に誤解が生じないよう、職員が出来る限り配慮をすると回答した。
		件		
事業内容	来室	1　件	消灯時間が早い。	施設は病院とは異なり、生活の場であることから、消灯時間が22:00となっている。部屋は4人部屋であり、集団生活のため、個人の要望には応えにくいことから消灯時間は変更できないことを説明した。
		件		
その他		件		
		件		

※指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(4)　神奈川リハビリテーション病院

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	意見箱	11　件	美容室が暑い。	冷房から暖房へ切り替える際、冷暖房機の運転を停止しなければならないことによるもので、今後は扇風機等での対応を行うことを説明した。
	来室	1　件		
	その他	1　件		
職員対応	意見箱	11　件	入院期間中、先生、看護師、理学療法士の方に大変良くしていただき感謝の気持ちでいっぱいだ。ありがとう。	感謝の言葉として該当する科に伝えた。
	電話	2　件		
	来室	3　件		
	その他	3　件		
事業内容	意見箱	7　件	外来各科で予約がとれるようにするべきだ。	現状の予約システムでは、外来各科での予約はできないこと、新病院においてシステムを一新する予定であることを説明した。
	電話	1　件		
	来室	4　件		
	その他	3　件		
その他	意見箱	10　件	売店で麺類の弁当があるとよい。	売店では保冷設備の容量不足や取引業者に麺類を扱っているところが無いことから対応が困難であることを説明し、ご理解いただいた。
	来室	1　件		
	その他	2　件		

※指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

(5)　七沢リハビリテーション病院脳血管センター

分野	報告件数		概要	対応状況
施設・設備	意見箱	3　件	夜間、寒いので暖房を入れて欲しい。	当該病棟へ伝え、衣類の調整・湯たんぽの使用等患者へ声かけをしていく。
		件		
職員対応	意見箱	6　件	リハスタッフ、病棟に対して親身になっていただき頑張れた事、栄養科に対して食事がおいしかった事、清掃が行き届いていた事に対して感謝する。	当該部署へ感謝の言葉があった事を伝えた。
	電話	2　件		
	手紙	1　件		
	対面	6　件		
	その他	1　件		
事業内容	意見箱	5　件	訓練時間を増やして欲しい。	当該部署へ情報提供し対応を依頼した。
	電話	2　件		
	対面	1　件		
その他	意見箱	9　件	魚・野菜を使用したメニューが多い。豚肉が硬い。	同様の内容の記載が複数回あったが全て無記名で意見箱への投書であった。個別に対応するので、申し出てもらうように掲示したが、申し出はなかった。改めて栄養科・当該病棟へ情報提供しそれに対する回答を掲示した。
	対面	3　件		

※指定管理者に起因するものは必ず記載。その他、苦情・要望への対応を行ったものを記載。

9．事故・不祥事等

発生日	事故等の概要	原因・問題点	①指定管理者の対応状況(再発防止策・業務改善策等) ②県の対応状況(随時ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ・改善勧告の実施等)

※随時モニタリングを実施した場合は必ずその内容を記載。

※過去に発生したものでも、新たな対応等を実施した場合には、その内容を記載。

※なお、大きな事故・不祥事に関して改善勧告を行わなかった場合は、その理由を併せて記載。